

18世紀のフランス語辞典にみられるcabinetの項目における展示施設に関する一考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学学芸員養成課程 公開日: 2021-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 臺, 由子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/21365

18世紀のフランス語辞典にみられる cabinetの項目における展示施設に関する一考察

臺 由子*

はじめに

フランスで自国語としてのフランス語辞典が編纂されるのは17世紀末である。その契機は1694年のアカデミー・フランセーズによる『アカデミー辞典』¹の刊行である。それ以前は、辞典類と言えはギリシア語やラテン語の辞典や辞書しかなかった。

フランスでは、16世紀後期のルネッサンスの時代にギリシア語やラテン語だけでなく、イタリア語もまたフランス語の語彙に入ってきていた。学識者はフランス語の文法の確立と国語の辞典・辞書の必要を感じて動きだした。1629年に始まった深い教養を備えた平民のヴァランタン・コンラール²邸での会合に集まっていた人々は、ルイ13世の宰相であるリシュリュー枢機卿³の目に留まった。リシュリュー枢機卿は、イタリアのアカデミアを模範として1635年2月10日にアカデミー・フランセーズを設立した。

このアカデミー・フランセーズの設立目的を示す、‘STATUTS ET RÈGLEMENTS’⁴の26項⁵には国語純化を目的とする国語辞典の編纂が。『アカデミー辞典』は、アカデミー・フランセーズの「国語純化」という使命を体現する一つとして期待されていた。その初版は、1694年に刊行されたが、アルファベット・オーダーでないなどの批判が寄せられた。そこで、1718年に刊行された第二版では、アルファベット・オーダーを採用した。18世紀には、1740年に第三版、1760年に第

四版、1798年に第五版と改版されている。⁶

『アカデミー辞典』の編纂に関わったリシュレ⁷やフルチエール⁸がそれぞれ独自のフランス語辞典を編纂・刊行し、それを剽窃する辞典も派生した。また、イギリスで1728年に刊行された『サイクロペディア』に刺激され、1751年から1772年に互り『百科全書』も刊行され、フランス語で多様な事物・用語の定義が説明されるようになった。それらの説明は、当時の社会を映し出していると考え、あながち不遜なことではないであろう。

本稿では、アカデミー・フランセーズの『アカデミー辞典』、リシュレの『フランス語辞典』⁹、フルチエールの『フルチエール辞典』¹⁰、『フルチエール辞典』第二版を剽窃したイエズス会¹¹の『トレヴー辞典』¹²といった、フランス語の辞典の中にみられる展示施設についての定義について明らかにし、18世紀の展示施設について論じることを目的とする。

そのために、cabinetの定義のうちの展示施設について考察したい。なぜcabinetなのか、muséeやmuséumでなく、あるいはgalerieでもない理由は何かと、疑問を呈するのは当然であるが、フランスでmuséumやmuséeの名称を展示施設やその種の機関の名称として用いるのはフランス革命以降であるためだ。

筆者は、チェンバーズの『サイクロペディア』と『百科全書』を比較検討した中で

* 明治大学大学院文学研究科博士後期課程

museum と musée の項目について論じたことがあるが、イギリスでアシュモールの博物館を museum と呼称している一方で、フランスではこれらについてまだ「博物学の陳列室 (cabinet d'histoire naturelle)」と呼称していて、musée は「アレクサンドリアのムセイオン」を指しており、今日的な意味での「博物館、美術館」という、明確な意図では用いられていないためである。¹³

そのような理由で、18世紀に編纂されたフランス語辞典の cabinet を比較検討し、展示施設について考察する必要があるといえよう。

最初に『百科全書』が影響を及ぼす以前の時代までの18世紀の辞典を cabinet の展示施設としての機能性という視点で論じる。ここでは、建築物の一部としての部屋、その中の「陳列室」の有り様と、その管理について検討する。最後に『百科全書』の影響を論じる。

なお、用いる資料は、筆者が修士論文『フランス博物館史－18世紀のフランスの辞典に見られる cabinet の項目を中心とした展示施設に関する比較研究－』¹⁴で翻訳したものであるが、紙幅の関係で各辞典の書誌データ、当該パラグラフ、その本文、日本語訳などは省略せざるを得ないことをお断りする。

1. 建築物の一部としての cabinet

cabinet の項目において大項目として最初に説明していることは、建物の中の居住区画 (appartement) を構成する小さな部屋を指すということである。中項目以降には、部屋の用途に応じた説明である。これは、各辞典による大きな差はない。その種類は、部屋とその用途別に書斎、陳列室、便所、あずまやといった部屋の種類、あるいは用途としての閣議が挙げられている。その他、入れ物としての戸棚、箱といったものである。ここでは、部屋としての説明を紹介する。

リシュレの『フランス語辞典』初版 (1680) では、cabinet の大項目にて「屋敷の中の居住

区画の一部屋 (Piecce d'appartement dans une maison)」であると定義した。¹⁵ 第二版 (1694) では「回廊の端にある小さな場所 (Petit endroi ... au bout d'une galerie)」で「居住区画の傍らにある小さな場所 (un petit lieu qui est aupres de quelque apartment)」と改訂され¹⁶、第二版以降の改訂では項目の説明に大幅な加除があったものの、この説明の一文はワイリー改訂版 (1793) まで変わらなかった。¹⁷

『フランス・アカデミー辞典』初版 (1694) では、「仕事や個人的な話のために引きこもる場所 (Lieu de retraite pour travailler, ou converser en particulier)」と真っ先に述べられており、それが極めて個人的な場所であることを説明しているのみで、建築上の説明はない。¹⁸

『フュルチエール辞典』初版 (1690) では、「宮殿や大邸宅の最も美しい居住区画の中の引きこもった場所 (Le lieu le plus retiré dans le plus bel appartement des Palais, des grandes maisons)」とまず説明がある。そして建物の構成を述べるのだが、それは「王の居住区画は、ホール、控えの間、部屋、小部屋、廊下によって構成される (Un apprtment royal consiste en sale, antichambre, chambre & cabinet avec une galerie à costé)」との説明である。¹⁹ この説明はバナージュ²⁰が改訂した第二版 (1701) まで変わらない²¹。しかし、第三版 (1708) は、バナージュが大きく改訂したため²²、大項目は「居住区画の小さな部屋。この用語は、場所に与えられた用途に従って多様な意味を持つ (petite piece d'un appartement. Ce mot a diverses significations, selon l'usage auquel le lieu est desitiné)」と、居住区画の一つの場所や部屋であること、用途が多様であることを述べている。²³

『トレヴー辞典』初版 (1704) は、『フュルチエール辞典』第二版 (1701) にラテン語の同義語「部屋 秘密の部屋 (Conclave secretius

cubiculum)」が加筆された。²⁴ これに影響を受け、リシュレの『フランス語辞典』1732年版にはラテン語 ‘Conclave, secretius cubiculum’ が付加されるが、カンマ記号(,)があることから『トレヴー辞典』第二版(1721)²⁵を参照したと思われる。²⁶ 『トレヴー辞典』第六版(1771)の改訂の際には、王の居住区画の構成が削除されている。²⁷

このように、それぞれの辞典では表現の相違があるものの、cabinetの定義について、第一に建物の中や居住区画を構成する一つの要素であること、第二に小さな部屋であること、第三に個人的な使用目的や用途によって多様な意味を持った。と、要約できるだろう。次にその用途の多様性を見る。

2. 書齋

Cabinetの大項目の次に中項目としてあがってくるのが書齋の用途である。

リシュレの『フランス語辞典』初版(1680)に、大項目に「本や書類があり、研究あるいは仕事の話をするためこもる (où sont les livres avec les papiers, où l' on se retire pour étudier, ou pour parler d' affaires)」, 中項目に「書齋の男。休息と書物を好む研究家 (Un homme de cabinet. C' est un homme d' étude qui aime le repos & les livres)」という説明がある。²⁸ これが第二版(1694)で改訂されて、「書齋」の説明が独立し、「書齋の男」が下位に移動した。書齋は、「研究のために充てられた屋敷の中の小さな場所 (Petit lieu dans une maison destiné pour étudier)」であり、書齋の男は「休息と書物を好む研究家 (personne qui aime le repos & livres)」かつ「人文学者 (un homme de lettre)」となった。この「人文学者」の説明には「比喩的な意味 au figuré」で用いるという条件が加えられたが²⁹, 第五版(1793)に至って「比喩的な意味」で用いる「人文学者」は消えている。³⁰

『アカデミー辞典』第二版(1718)で「書齋

の男」が加筆され、「研究を好む人物 (Un homme qui aime l'étude)」と説明がされるが³¹, これはリシュレの『フランス語辞典』初版にあった「休息と書物を好む研究家 (C' est un homme d' étude qui aime le repos & les livres)」³²からの影響だとも言える。

『フルチエール辞典』初版(1690)では、書齋は「平常の邸宅の引きこもった小さな場所 (un petit lieu retiré dans les maisons ordinaires)」で「壁でしか閉じられることのない (n' est souvent fermé que d' une clison)」場所、「研究し、最も素晴らしいものを詰める (c' est où l' on étudie, & où l' on serre ce qu' on a de plus précieux)」という。そして、「学者は書齋にいつも閉じこもる (Ce Sçavant est toujours enfermé dans son cabinet)」とある。³³ 第二版(1701)では、壁で閉じたの表現が消え、「図書室を含む (contient une Bibliotheque)」場所である。ここでは、「OE. M'」と「LA GUILL」の2件の引用が加筆された。引用一覧から「OE. M'」はサンテ・エヴェルモン³⁴の作品の一つ *Œuvres mêlées* (1643-1692) から、「LA GUILL」はグレイティエール³⁵の著作物からの引用とわかる。³⁶ エヴェルモンは、書齋では「静寂 (le calme)」を求めるが、その雰囲気は鬱々しており、社交界との交流を失うと言い、グレイティエールは、書齋の過度な利用を控えるように言う。³⁷ 第三版(1708)では大きく改訂されるが、2名の文献からの引用文は残された。邸宅や居住空間の小さな場所であり、図書室でもあり、書類を綴り、引きこもりをする場所と要約できる。³⁸

『トレヴー辞典』初版(1704)は『フルチエール辞典』第二版(1701)をほぼそのまま引用し、ラテン語で「ムセイオン (Museum)」と付加している。³⁹ その意味として、研究の場所をムセイオンと述べるのであるが、このラテン語はアレクサンドリアのムセイオンを思い起こさせる。なお、このラテン語は、リシュレの『フランス語辞典』1732年版に影響

を及ぼして、同義語に「ムセイオン (Musœum)」を付加させることになった。⁴⁰

文献からの引用は、グレイティエールのものは削除された一方で、エヴェルモンは残された。この引用元の情報が『フルチエール辞典』のOE. M. から『トレヴー辞典』ではS. EVR. に変更し、引用一覧にはS. EVR. を「エベルモンの著作から (de S. Evremont, div. ouvre.)」と照会しているのが⁴¹、確認の上の引用であろう。引きこもりは、好ましいことと思われなかったようである。

このように、書齋は研究や読書あるいは引きこもる場所であり、図書室も含んでいた。ラテン語の同義語として「ムセイオン」が示された。

3. 陳列室

いわゆる「陳列室」としての用途で用いられている cabinet について考察する。

リシュレの『フランス語辞典』初版 (1680) の中では、cabinet の大項目に「価値ある絵画 (des tableaux de prix)」のある屋敷の場所、と説明されている。⁴² これが、cabinet を陳列室とする物であろう。

『フルチエール辞典』初版 (1690) には、「陳列室、好事家があらゆる種類の珍品、アンティークの破片、コイン、絵画、貝殻、その他自然物や工芸の珍品を保管し、売り、交換する一種の立派なブティックの場所も言う。ある好事家の陳列室は、10万フランの値打ちがある。この男はパリの陳列室の中で最も奇妙なものを知っている。(CABINET, se dit aussi d'une espece d'honneste boutique où les curieux gardent, vendent & troquent toutes sortes de curiosités, de pieces antiques, de médailles, de tableaux, de coquilles, & autres raretés de la nature, & de l'art. Le cabinet d'un tel curieux vaut cent mille francs. Cet homme connoist ce qu'il y a de plus curieux dans tous les

cabinets de Paris.)」と、「モノが並んでいる場所とそこに保存されているまさにそのモノを示す目的で、図書・武具・コインの陳列室と言う (le Cabinet des livres, des armes, des médailles, pour signifier les lieux où ces choses sont rangées, & les choses même qui y sont conservés.)」という説明がある。⁴³ おかげで、当時の具体的な様子が分かる。

『アカデミー辞典』初版 (1694) では大項目に「絵画、絵、武器、珍品、奇品、アンティークの陳列室 (un cabinet de peintures, de tableaux, d'armes, de curiositez, de raretez, d'antiques)」とその種類が見られ⁴⁴、第二版 (1718) でも大項目でその場所に置くものが「価値の高いモノ (chose de précieux)」と説明が増え、「コインの陳列室 (cabinet de medailles)」も加わった。⁴⁵ また、初版に「陳列室の中に入っているすべて (Tout ce qui est contenu dans le cabinet)」で、キャビネの売り買いについても「見積もる (estimer)」といった値踏みがあったことが説明されている。金額の数字と単位は相違するが、これはフルチエールが『アカデミー辞典』に関わっていた名残り、あるいは『フルチエール辞典』の影響である可能性が考えられる。⁴⁶

『フルチエール辞典』第三版 (1708) は、バナージュによって陳列室の項目も大きく改訂され、王の居宅や大貴族や好事家の居宅の陳列室は図書、絵画、コイン、その他の珍品、アンティークのための収納する場所であると説明している。⁴⁷

リシュレの『フランス語辞典』第二版 (1694) では、中項目に「絵画室」と「陳列室」が立てられ、「絵画室」は「絵画で飾られた小さな部屋 (Petit lieu orné de tableaux)」で、建築家ウィトルウィウス⁴⁸がラテン語で「絵画室 (pinacotheca)」と呼ぶ部屋だと説明されている。「陳列室」は、「コイン (médailles)」や「珍品 (curiositez)」を置く場所でラテン語

で「宝庫 (cimelium)」と呼ぶと説明されている。パリには絵画室、聖ジュヌヴィエーヴ修道院の図書館の中に陳列室があると紹介している。⁴⁹ 1732年版では、リヨンのイエズス会のコロニア神父などの陳列室も紹介するものの⁵⁰、1759年版では陳列室の紹介は削除された⁵¹。リシュレの『フランス語辞典』1780年版は、用途のみの記載になり、「絵画室」「陳列室」もその用途、すなわち「絵画」で飾られた小部屋や「コイン」と「珍品」を置く場所として説明されているが、新たに陳列室を「見積もる (estimer)」説明文が付加され、『アカデミー辞典』からの影響が感じられる。⁵²

また、『トレヴー辞典』は初版(1704)こそ『フルチエール辞典』第二版にラテン語を付しただけであったが、そのラテン語は「珍しい、見事な、貴重な品を保管する部屋 (Cella in qua res rare, eximia, preciosa reconduntur)」と説明しており⁵³、第二版(1721)では「文書室、絵画室 (tablinum, pinacotheca)」の名称が加わっている⁵⁴。また、初版では、図書や武具、コインの陳列室に対し「戸棚 (Armarium)」と名称を示し、第二版では「宝物 (Cimelium)」を付加し、聖ジュヌヴィエーヴ、イエズス会コーレージュ・ド・パリ、ワイルド氏、ペンブルック伯の陳列室を紹介した。ラテン語の 'Pinacotheca', 'Cimelium' と聖ジュヌヴィエーヴの陳列室はリシュレの『フランス語辞典』第二版(1694)に紹介されており、これを意識して加筆したのだと思われる。

イエズス会が解散させられた後、『トレヴー辞典』第六版(1771)が刊行された。そこには新たに「博物学の陳列室 (CABINET d'Histoire-Naturelle)」の項目が現れた。博物学の陳列室は、「動物界・植物界・鉱物界 (le règne animal, végétal & mineral)」の自然のあらゆる種類・相違する産物という「コレクション (collection)」を収容する場所と説明され、「王の植物園 (jardin du Roi)」が紹

介されている。⁵⁵ 後述するが、この説明は、『百科全書』に影響されてのことと思われる。

このように、陳列室とは、中に収納する図書、絵画、貝殻、自然物、工芸、珍品、アンティークなどの用途に応じた小さな部屋であること、また、それらを売り買いしていたことがわかる。「文書室 (tablium)」、「絵画室 (pinacotheca)」や「宝庫 (cimelium)」といったラテン語が充てられており、古代ローマ時代から貴重なコレクションを収納していたことも伺える。

4. 管理の手法

一方、それらがどのように扱われていたかも説明されている。

リシュレ『フランス語辞典』第二版(1694)では、絵画室は絵画で飾られた部屋、陳列室はコインと珍品のあらゆる類を置く場所として説明がなされ、「飾る (ormer)」、「置く (mettre)」という行為を行ったとされている。⁵⁶

『アカデミー辞典』初版(1694)では、書類や書籍その他のモノを「詰める (serrer)」場所とあり⁵⁷、第二版(1718)では、絵画やその他の価値の高いモノを「置く (mettre)」場所と加筆された⁵⁸。陳列室の中に「入っている (contenire)」すべてという有り様も見えた。⁵⁹

『フルチエール辞典』初版(1660)では、書齋には「詰める (serrer)」、陳列室には「保管する (garder)」、王の居室ではモノが「並べる (ranger)」、「保存されている (conserver)」と説明されている。⁶⁰

第三版(1708)は、陳列室の項目も大きく改訂され、王の居宅や大貴族や好事家の居宅では、「保管する (garder)」、「順序立てて配置する (y disposer par ordre)」、「収納する (renfermer)」と説明が変化している。⁶¹

最後に、『トレヴー辞典』についてであるが、『フルチエール辞典』と異なる表現では、『トレヴー辞典』初版(1704)の陳列室の説明にラテン語の「保存する (recondo)」と

いう説明が加わっている。⁶² 第二版(1721)の「絵画陳列室」「図書陳列室」では絵画や図書を「保管する (garder)」という説明がある。⁶³ また、第六版(1771)においては、博物学の陳列室は、コレクションを「中に収める (contenir)」場所で、博物学の研究のために「体系順に配列 (ranger par ordre méthodique)」され、「最適な方法で配置する (distribuer de la façon la plus convenable)」と説明している。⁶⁴

「陳列室」ではモノをどのように取り扱っているのか、それぞれの考えが見えたが、こう並べてみると、『フルチエール辞典』第三版(1708)の頃には保存や配置の技術が以前より高度になったようであるが、「博物学の陳列室」の記述では、その手法が科学的にすら見えてくる。ここで、その手法について、序列をつけてみよう。

まず、モノを「陳列室」に入れることになる。それは、「中に収める (contenir)」、「収納する (renfermer)」ことであり、そこで「保存する (conserver)」のだ。

それらは、モノの形態や形状に従って、図書や書類は「詰める (serrer)」、絵画は「飾る (ormer)」、多くのモノは「置く (mettre)」、あるいは「並べる (ranger)」ことになる。

それらは、仕舞っておかれるだけでなく、適切な世話が必要であるので保存しつつ管理すること、つまり「保管する (garder)」ことになる。

そして保存するにも、人に見せるのにも乱雑なままでなく、「順序立てて配置する (y disposer par ordre)」のが相応しい。当時の最先端の手法は、体系順に配列する (ranger par ordre méthodique) ことであり、適切な方法で配置する (distribuer de la façon la plus convenable) という管理であったといえよう。

5. 百科全書の影響

『トレヴー辞典』は、フランスのアン県トレ

ヴーを拠点とするカトリックのイエズス会修道士によってプロテスタント色が濃いバナージュの『フルチエール辞典』第二版(1701)をもとにカトリック色に補正して編纂された辞典である。フルチエールの名もバナージュの名も冠せずに、1704年に『トレヴー辞典』初版全3巻は刊行された。⁶⁵

また、イギリスでは、チェンバーズの『サイクロペディア』が1728年に刊行され、これに刺激されてフランスでは『百科全書』を刊行する動きが起こり、1745年に『百科全書第一趣意書』が広告され、1751年に第1巻が刊行された。イエズス会はこれを阻止するために激しく攻撃をかけた。

しかし、フランスでは、ルイ15世によってカトリックのイエズス会が1764年に禁止されてしまう。イエズス会には敵も多かったのだ。敵の主たるものは、聖書の権威を信奉する厳格主義者、高位ジャンсениスト、パリ高等法院などがあり、特にパリ高等法院の攻撃には聖職者総会の擁護も功がなかった。これは、1750年から1770年における宗教的変化の一つであった。⁶⁶

なお、『トレヴー辞典』の最後の版は、1771年に全8巻で刊行された。印刷はパリで行われ、内容も改版して2段組みで頁数を振った。⁶⁷ マスバレー神父⁶⁸とブリアン神父⁶⁹が編纂したものである。

これに先立ち、1752年に刊行された『百科全書』の第2巻には「博物学陳列室」の項目がある。そのため、『トレヴー辞典』第六版(1771)のcabinetの項目は『百科全書』に影響されているだろうこと、また『百科全書』の要約であることはたやすく想像できるだろう。しかし、「博物学陳列室」の項目はドバントン⁷⁰とディドロ⁷¹の執筆によるもので、ビュフォンの『博物誌』の引用も含め、非常に長いものである。

『トレヴー辞典』第六版(1771)に新たに加筆された「博物学の陳列室」のパラグラフに

注目したい。

☞ *CABINET d'Histoire-Naturelle*, appartement d'une ou de plusieurs pièces propres à contenir des collections et tout genre, des différentes productions de la nature dans le règne animal, végétal & minéral, rangées par ordre méthodique, & distribuées de la façon la plus convenable à l'étude de l'histoire-naturelle.

☞ Celui du jardin du Roi est un des plus riches de l'Europe.

☞ *CABINETS Secrets*, en physique, sont des *cabinets* dont la construction est telle, que la voix de celui qui parle à un bout de la route, est entendue à l'autre bout.

☞ 博物学の陳列室, コレクションを中に収めるのに適した単品か多くの品の居住区画, 動物界・植物界・鉱物界の自然のあらゆる種類・相違する産物を, 体系順に配列させ, 博物学の研究に最適な方法で配置させる。

☞ 王の植物園のそれは, ヨーロッパで最も豊かである。

☞ 秘密の部屋, 物理学で, ドームの端で話す彼の声が, もう一方の端で聞こえるような構造の部屋。⁷²

このように, 「博物学の陳列室」, 「王の植物園」, 「秘密の部屋」の3つの部分から構成されている。

まず, 「王の植物園」に関して指摘すると, 『百科全書』では 'Celui du jardin du Roi est un des plus riches de l'Europe.'⁷³の一文があり, 両方とも同じである。

「博物学の陳列室」についても比較しよう。ここに『百科全書』のドバントンの執筆した「博物学の陳列室」の冒頭の部分を以下にあ

げる。

Cabinet d'Histoire naturelle. Le mot *cabinet* doit être pris ici dans une acception bien différente de l'ordinaire, puisqu'un *cabinet d'Histoire naturelle* est ordinairement composé de plusieurs pièces & ne peut être trop étendu; la plus grande salle ou plutôt le plus grand appartement, ne seroit pas un espace trop grand pour contenir des collections en tout genre des différentes productions de la nature: en effet, quel immense & merveilleux assemblage! comment même se faire une idée juste du spectacle que nous présenteroient toutes les sortes d'animaux, de végétaux, & de minéraux, si elles étoient rassemblées dans un même lieu, & vûes, pour ainsi dire, d'un coup d'oeil? ce tableau varié par des nuances à l'infini, ne peut être rendu par aucune autre expression, que par les objets mêmes dont il est composé: un *cabinet d'Histoire naturelle* est donc un abrégé de la nature entière.⁷⁴

博物学の陳列室。陳列室の用語は, 通常と相違する意味で, ここでは理解する必要がある, しかしながら博物学の陳列室は通常それほど広く多くの部屋で構成される; 最も大きなホール, より正確には最も大きな居住区画は, 自然の多様な産物のすべての種のコレクションを収納するための非常に大きな空間はない: 確かに, 何と広大で素晴らしい寄せ集めだ! 動物, 植物, 鉱物のすべての種類を見せる見世物について一応の概念をつかむのと同じやり方は, 同じ場所の中で集められ, いわば一目で見せられるのだ

ろうか？この色あせない多様なタブローは構成された同じモノによってしか、いかなる他の表現によっても表すことはできない：博物学の陳列室はそれゆえ自然全体の要約である。

このように一見大きく異なるようにみえるが、『トレヴー辞典』の「博物学の陳列室」とはCABINET d'Histoire Naturelle, appartement, plusieurs pièces, collection, tour genre, des différentes productions de la natureなどその基幹的単語が同じであり、また, animal, végétal, mineralは複数形か単数形かの相違だけである。

そして、『百科全書』の「博物学の陳列室」の項目のドバントンの執筆した最後のパラグラフには、次のような一文もある。

Toutes ces collections sont rangées par ordre méthodique, & distribuées de la façon la plus favorable à l'étude de l'Histoire naturelle. (I)

これらのコレクションは、体系的な序列で並べられ、&博物学の学習に最も有利な方法で配置されている。それぞれの個体はその名称を付けている、&すべては題箋と共に板ガラスの上に据えられ、あるいは最も適切な方法で配置されている。(I)⁷⁵

これは、『トレヴー辞典』の「博物学の陳列室」についての説明の後半部分と比較すると、convenableとfavorableが異なるのみである。

このように、『トレヴー辞典』の「博物学の陳列室」の説明は、『百科全書』の「博物学の陳列室」の項目のうちドバントンの執筆した最初のパラグラフと最後のパラグラフから引用し、文言を整えて要約したとも言えそうである。

また、『百科全書』のダランベール⁷⁶による「秘密の部屋」の冒頭は、次のように始まる。

Cabinets secrets; (Physique) sorte de cabinets dont la construction est telle que la voix de celui qui parle à un bout de la voûte, est entendue à l'autre bout ;

秘密の部屋（物理学）ドームの端で話す彼の声が、もう一方の端で聞こえるような構造の一種の部屋⁷⁷

このように、'en physique'と'Physique'、'sont'と'sorte'が相違するのみで、『百科全書』に非常に似ていることが指摘できよう。

どうやら、カトリックのイエズス会は、当初『トレヴー誌』などで『百科全書』を激しく攻撃したが、イエズス会が廃止された後では、トレヴーの名を冠した辞典の第六版ではあったが、『百科全書』の成果を取り込んだ編纂を行ったようである。

まとめ

さて、18世紀のフランス語辞典におけるcabinetの定義説明から展示施設に関する表現を読んできたが、当時の陳列室と書齋や図書室といった王や貴族といった身分のある者や好事家と呼ばれる人々のコレクションの管理を明らかにできたと思う。

また、検証の中で、いくつか相互に影響を与え合っていた関係性も指摘した。紙面の都合もあり検証しなかったが、アカデミー・フランセーズは、フルチエールに対して剽窃したと辞典の刊行許可状を取り上げた。本稿の取り上げた領域では、比較したところ剽窃していたとは感じられなかったが、『フルチエール辞典』初版(1690)にみられる陳列室の「値打ち」が『アカデミー辞典』初版(1694)に多少影響を与えた感があった。リシュレの『フランス語辞典』初版(1680)の

「書齋の男」の項目も『アカデミー辞典』第二版(1718)に影響が見られた。『フルチエール』第二版(1701)は『トレヴー辞典』初版(1704)に剽窃され、『フランス語辞典』第二版(1694)のラテン語の *pinacoteca* と *cimilium* として「聖ジュヌヴィエーヴ修道院の陳列室」が『トレヴー辞典』第二版(1721)に影響を与えた。逆に『トレヴー辞典』第二版のラテン語表記から『フランス語辞典』第三版(1732)に *Conclave, secretuis cubiculum* と *Museum* などのラテン語が加筆され、影響があったことがいえるだろう。『フランス語辞典』第四版(1759)以降は『アカデミー辞典』の綴りに従うことを宣言しているし、第五版(1780)は『アカデミー辞典』第四版の陳列室の値打ちに影響されていた。

そして、反目しあっていたイエズス会も『トレヴー辞典』第六版(1771)が最後になって『百科全書』に影響を受け、改訂していたことも明らかになった。

このように、辞典は相互に影響を与えているが、それは当時の社会や文化を反映し、定義の文言を変更する必要があったためともいえる。

註

- 1 Académie Française *Le Dictionnaire de l'Académie Française, dédié au Roy* Tome1-2, 1694 (1er édition)
ここでは『アカデミー辞典』に統一、フランス語表記は *Dictionnaire de l'Académie Française* とする。
なお、シカゴ大学の The ARTFL Project では、『アカデミー辞典』初版・第四版・第五版・第六版・第八版の検索、また同時代のいくつかの辞典の検索が可能である。 <http://portail.atilf.fr/dictionnaires/index.htm> (2020/1/14 確認)
- 2 Valentine Conrart (1603-1675) アカデミー・フランセーズの父とも言われる
- 3 Armand Jean du Plessis, cardinal de Richelieu (1585-1642) カトリック教会の聖職者で枢機卿 (1622), ルイ 13 世の宰相 (1624-1642) としてフランスの絶対王政の基礎を築いた。
- 4 Académie Française, *STATUTS ET RÈGLEMENTS*, http://www.academie-francaise.fr/sites/academie-francaise.fr/files/statuts_af_0.pdf (2020/1/14 確認)
- 5 同上 p17. 1635年2月22日に制定された *STATUTS ET RÈGLEMENTS DE L'ACADÉMIE FRANÇOISE* の XXVI の項には 'Il sera composé un dictionnaire, une grammaire, une rhétorique et une poétique sur les observations de l'Académie. (辞典, 文法, 修辞学, 詩学をアカデミーの意見により作成する)' とある。この項は、後世に注が振られ、アカデミーによって次のような説明がされている。「この辞典だけが、この教育に対応した。この業績はアカデミーの意見のみだけでなくアカデミー会員自身によっても、継続され、編纂された。初版は1694年に公表された。現在、第九版が公開されている。1932年に出版され、文法を確立するも、大流行を起こすものではなかった。辞典というものは、本来、記載事項によって文法や修辞学への貢献をもたらすものである。(Seul le Dictionnaire a répondu à cette instruction. C'est une œuvre continue, composée, non pas seulement sur les observations de l'Académie, mais par les académiciens eux-mêmes. La première édition a vu le jour en 1694. La neuvième est en cours de publication. Il a été établi une grammaire, parue en 1932, mais qui ne connut pas grande vogue. C'est le Dictionnaire en soi qui, par ses indications, apporte contribution à la grammaire et à la rhétorique.)」
- 6 なお、1835年に第六版、1878年に第七版、1935年に第八版、1986年に第九版が刊行されている。
- 7 César-Pierre Richelet (1631-98) フランスの辞書の最初の編纂者
- 8 Antoine Furetière (1619-1688) フランスの文学者。神父。1684年『普遍的辞典試論 (*Essai*

- d'un dictionnaire universel*)』を出版する。死後に『フルチエール辞典』が出版される。
- 9 Richelet *Dictionnaire François, contenant les Mots et les Choses, plusieurs Nouvelles remarques sur la Langue Française*, 1680 (1er édirion)
ここでは『フランス語辞典』に統一, フランス語表記は *Dictionnaire François* とする。
- 10 Antoine Furtière *Dictionnaire Universel, Contenant generalement tous les Mot François tant vieux que modernes, & les Termes de toutes les Science et des Arts, ...* 1690 (1er édition)
正式名称が長い, 『フルチエールの辞典 (*Dictionnaire de Furetière*)』, 『普遍的辞典』, 『汎用辞典』, 『万有辞典』, フルチエールの『フランス語辞典』など多様に呼称される。ここでは, 『フルチエール辞典』に統一, フランス語表記は *Dictionnaire Universel* とする。
- 11 イエズス会士は, フランスのアン県トレヴーを拠点とした。ルイ 15 世によってイエズス会は 1764 年に禁止されるが, 1771 年に『トレヴー辞典』全 8 巻が刊行された。
- 12 Trévoux *Dictionnaire universel françois et latin : contenant la signification et la définition... des mots de l'une et de l'autre langue... la description de toutes les choses naturelles... l'explication de tout ce que renferment les sciences et les arts*, 1704 (1er édition)
正式名称が長い, 『トレヴー辞典』に統一, フランス語表記は *Dictionnaire Universel François et Latin* とする。
- 13 臺由子「チェンバーズの『サイクロペディア』『サイクロペディア』と『百科全書』の辞典項目 museum と musée に関する一考察」『明治大学芸員妖精課程紀要』30 pp.39-48 明治大学学芸員養成課程 2019
- 14 用語の定義研究が修士論文に至った経緯は, 上記論文 p.39 に簡単に述べた。
- 15 Richelet *Dictionnaire François* p.101, 1680
- 16 Richelet *Dictionnaire François* 1re Partie p.171, 1694
- 17 Richelet et Wailly *Dictionnaire François* Tome1 p.221, 1793
- 18 Académie Française *Dictionnaire de l'Académie Française* T.1, pp.137-138, 1694
- 19 Furtière *Dictionnaire Universel* Tome1 頁記載なし, 1690
- 20 Henri Basnage de Beauval (1657-1710) フランスの歴史家, 辞書編集者。ルーアン生れ。プロテスタントの迫害に会い, ロッテルダムに亡命。『諸宗派の寛容について』を著す。
- 21 Furtière et Basnage 1701 *Dictionnaire Universel* Tome1, p.350
- 22 1708 年に刊行の『フルチエール辞典』第三版では大きく改訂がされている。それは, 第二版を剽窃した『トレヴー辞典』が 1704 年に刊行されたことが関わっているだろう。パナージュは, 内容を推敲し, 独自の説明へと昇華させたとも言える。1727 年刊行の第四版は, ジャン・ブルテル・ド・ラ・リヴィエールの編纂であるが, cabinet の項目については, そのまま引き継がれている。
- 23 Furtière et Basnage *Dictionnaire Universel* Tome 1, 頁記載なし, cabinet の項目, 1708
- 24 Trévoux *Dictionnaire universel françois et latin* Tome 1, 頁記載なし, cabinet の項目, 1704
- 25 Trévoux *Dictionnaire universel françois et latin* Tome 1, 1306-1307 段, 1721
- 26 Richelet et Aoubre *Dictionnaire François* Tome 1, p.254, 1732
- 27 Trévoux *Dictionnaire Universel François et Latin* Tome 2, p.129, 1771
- 28 Richelet 1680 p.101
- 29 Richelet 1694 1er Partie p.171
- 30 Richelet et Wailly 1793 T.1 p.222
- 31 Académie Française *Dictionnaire de l'Académie Française* Tome 1, p.197, 1718
- 32 Richelet 1680 p.101
- 33 Furtière 1690 T.1 頁記載なし, cabinet の項目
- 34 Charles de Saint-Évremond, Charles de Marguetel de Saint-Denis, seigneur de

- Saint-Évremond, (1613-1703) フランス生まれ。モラリストで批判的な自由思想家。17世紀では高く評価されたが、18世紀に入ると評価されなくなった。
- 35 Guillet de Saint-George, Georges (1624-1705) フランスの劇作家で歴史家。王立絵画彫刻アカデミーの会員。ペンネームはSieur de La Guilletière。
- 36 Furtière et Basnage 1701 T.1 'TABLE ALPHABETIQUE des noms des Auteurs citez par abreviation' ページ記載なし
- 37 Furtière et Basnage 1701 T.1 p.350
- 38 Furtière et Basnage 1708 T.1 cabinetの項目
- 39 Trévoux 1704 T.1 cabinetの項目
- 40 Richelet et Aoubre 1732 T.1 p.254
- 41 Trévoux 1704 T.1 'Table Alphabétique des nom des Auteurs citez par abrevation' ページ記載なし
- 42 Richelet 1680 p.101
- 43 Furtière 1690 T.1 cabinetの項目
- 44 Académie Française 1694 T.1 pp.137-138
- 45 Académie Française 1718 T.1 p.197
- 46 Académie Française 1694 T.1 pp.137-138
- 47 Furtière et Basnage 1708 T.1 cabinetの項目
- 48 Marcus Vitruvius Pollio (生年・没年は不明) ガイウス・ユリウス・カエサルやアウグストゥスに関係したことが分かっており、紀元前80年/70年頃に生まれ紀元前15年以降に没した、共和政ローマ期の建築家。『建築について (De Architectura, 建築十書)』を執筆。
- 49 Richelet 1694 P.1 p.171
- 50 Richelet et Aoubre 1732 T.1 p.254
- 51 Richelet et Goujet *Dictionnaire François* Tome 1, pp.373-374, 1759
- 52 Richelet et Wailly *Dictionnaire François* Tome 1, pp.221-222, 1780
- 53 Trévoux 1704 T.1 頁記載なし cabinetの項目
- 54 Trévoux 1721 T.1 1306~1307段
- 55 Trévoux 1771 T.2 pp.129-130
- 56 Richelet 1694 P.1 p.171
- 57 Académie Française 1694 T.1 pp.137-138
- 58 Académie Française 1718 T.1 p.197
- 59 Académie Française 1694 T.1 pp.137-138
- 60 Furtière 1690 T.1 cabinetの項目
- 61 Furtière et Basnage 1708 T.1 cabinetの項目
- 62 Trévoux 1704 T.1 cabinetの項目
- 63 Trévoux 1721 T.1 1306~1307段
- 64 Trévoux 1771 T.2 pp.129-130
- 65 佐野泰雄 「『トレヴーの辞典』」p.17『一橋大学社会科学古典資料センター年報』9, pp.14-18, 1989, 一橋大学, 東京
- 66 グザヴィエ・ド・モンクロ著／波木純一訳『フランス宗教史』pp.86-87, 1997, 白水社, 東京
- 67 『トレヴー辞典』の版については, CNRTL (Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales) のHPを参照した。http://www.cnrtl.fr/dictionnaires/anciens/trevoux/affiche_serie.php (2017/5/6確認)
- 68 abbé Masbaret (?-1782) フランス, リムザンのサン・レオナルド (Saint-Léonard) の司祭だった。
- 69 abbé Brillant 不詳
- 70 Louis Jean-Marie Daubenton (1716-1800) フランスの博物学者。神学を学ぶためにパリに行くが、父親の死後に医学を学ぶ。故郷モンパールで開業したが、ビュフォンの要請で『博物誌』の執筆にかかわる。パリにある王の植物園の管理者でデモンストレーター、鉱物学の教授。
- 71 Denis Diderot (1713-1784) フランスの哲学者, 作家, 美術評論家。百科全書派の中心人物の一人。
- 72 Trévoux 1771 T.2 pp.129-130
- 73 Daubenton 'CABINET D' HISTOIRE NATURELLE' *Encyclopédie* Tome 2, p.489, 1752
- 74 Daubenton 1752 p.489
- 75 Daubenton 1752 p.490
- 76 Jean Le Rond d'Alembert (1717-1783) フランスの哲学者, 数学者, 物理学者。百科全書派の中心人物の一人。
- 77 d'Alembert 'CABINETS SECRETS' *Encyclopédie* Tome 2, p.492, 1752

On the Meaning of the Word ‘Cabinet’ as an Exhibit Facility in 18th Century French Dictionaries.

DAI Yoshiko

In this paper, I will try to clarify the meaning of the cabinet as an exhibit facility in 18th Century French dictionaries. For that, I will compare the meanings in *Le Dictionnaire de l'Académie Française* by Académie Française, *Dictionnaire François* by Richelet, *Dictionnaire Universel* by Antoine Furtière and *Dictionnaire universel françois et latin* by the society of Jesus in Trévoux.

Though the word ‘Cabinet’ has various meanings, I will focus on the meaning as the exhibit facility. Cabinet means small room of a house or building, storing equipment for valuable goods and others and the Cabinet as the governmental organization.

In these dictionaries, ‘cabinet’ as an exhibit facility were shown a small room for storing personal collection of various goods. So, I will compare the examples on attached items and objects to the room and also how to care and keep those. We can see several changes of meanings in different editions of the same dictionary, and also point out mutual influences in between different dictionaries.

From the comparison, we can convince that the meanings of the word ‘cabinet’ were changed by social and cultural influence. And I will guess that there can see the clear influence of *Dictionnaire universel françois et latin* from *Encyclopédie* edited by Encyclopédist, although the former dictionary was compiled by the Catholic society.